


Gert Balling's homepage

Publications

Dansk version




Contact - information

Dr. Gert Balling
Cand. mag. Ph.D.
Phone: (+45) 3886 5538 / 4525 1115/ 2212 4060
Email: gba@adm.dtu.dk
Homepage: www.gertballing.dk

Homo sapiens 2.0


The Science Café:

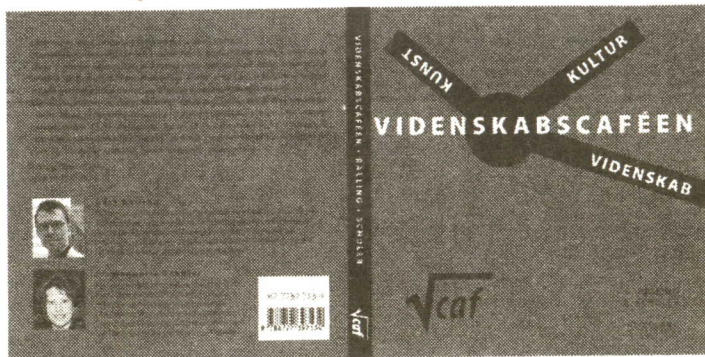


I am working with the relationship between man and new technology. Hold a master's degree in Media Studies and Modern Culture from University of Copenhagen and Albert Ludwigs Universitat in Freiburg, Germany. And a PhD from the IT University of Copenhagen, Denmark and UCLA, USA. I have written and edited books and articles on the issue man-technology in different contexts as have occasionally been on national radio and television to discuss ethical and moral dilemmas in the perspective of new technology. Latest in the DR radio program Agenda in February 2005 and DR TV program Deadline 2, section in April 2005 or going talks around the country like at Haders and Bains in Aarhus in september 2005. You can find links to several articles and radiospots under the publication link.

Updated 1. January 2005

Genius Award 2004, press announcement





↑「サイエンスカフェ宣言」が掲載されているブックレット表紙

←バーリンさんのホームページ

る。

民主的であること

上記のサイエンス・カフェ宣言で特徴的なところのひとつが、「サイエンス・カフェは民主的であるからして、誰でも参加でき、無料であるべきだ」という主張が二度も繰り返されているところである。意地悪い言い方をすれば、「そこまで参加費無料にこだわらなくても……」と思えるが、この繰り返しはバーリンさんの考えるサイエンス・カフェやサイエンス・コミュニケーションの根底に「民主的であること」が大きな意味を持っていることの表れだと考えられる。あるいは、デンマークという国に根付く「平等」の思想の表れとも言えるかもしれない⁴。もちろん、バーリンさんが講演で言うように、ヨーロッパのサイエンス・コミュニケーションの流れとして、「公衆の科学的理解」に関する考え方が、従来のように、能動的な科学者が受動的な市民にたいして科学の知識を「注入」という一方公的なモデルから、「対話・参加型」を重視し、「利便性」や「リスク」、「信頼」や「価値」、「教育」といった要素も考えるべきだという考えに変わってきているというのも大きな追い風になっているだろう。

また、コペンハーゲンのサイエンス・カフェでは、いつでも自然科学分野以外を専門とする社会学者、アーティスト、文化評論家、などの専門家に同席してもらい、科学が「より広い社会的文脈でどのようなインパクトを持つのか」という視点を常に取り入れていこうとしているところも、「民主的であること」につながっていると思う。科学者がわかりやすい言葉で広く市民に対して科

学について語ることが「民主的」でないとは言わないが、科学が私たち自身にどのように関わっているのか、私たちの街やコミュニティにとってどんな意味を持っているのか、あるいは私たちの子供たちにどのような影響を持つ可能性があるのか、という視点を織り込むことによって、「私たち」の問題として科学について考えられるのであれば、その方がより「民主的」であるといえるだろう。

ここで重要になるのが、異なる意見をどうまとめていくのかという問題である。

聴くこと

数々のサイエンス・カフェの司会を務めているバーリンさんが、場を仕切るときに最も重要だと繰り返し強調していたのは、話を「聴くこと」であった。カフェの進行も参加者の声をもとに、方向性を決めていくようにしているらしい。彼によると、自分から質問してしまう司会は良くないという。札幌でいくつかのサイエンス・カフェの運営に関わった私の経験から考えると、参加者の意見を聴いて、それをもとに話をすすめるのはとても勇気のいることである。それこそ参加者をしっかりと信用していないとできないことだ。

もちろん、司会が「聴く」ことに徹するだけではなく、話題提供をする専門家（科学者だけでなく、社会学者や哲学者、アーティストや文化評論家もふくめて）にも、いくつか心得てもらふ必要がある。バーリンさんのあげた注意点のひとつは、話が「微に入り細にわたる」ことを避けることである。参加者である市民は科学者ではないのだから、細かな話しは必要ではなく、彼らが関わりを持てるような大まかな今後の展望や概略をまず伝える

4:村上龍の主宰するメールマガジンで高田ケラー有子さんが書かれていた「平らな国デンマーク「幸福度」世界一の国から」がNHK生活人新書となって刊行されていますが、ここにはデンマークの民主的なものの事例がいくつもでてきます。